

# 支援の130万円で車両購入

## ウガンダ支援で 購入資金送る 現地から喜びの声

N.P.O法人安房文化遺産フォーラムのウガンダ支援グループ「ひかりの」が、クラウドファンディング(インターネットによる資金調達)で車の購入資金を募った運動で、目標が達成され、現地で車両が購入された。報告書も作成され、現地の喜びが伝わってくる。

「活動している自動車意識向上協会を通じ、1

が故障してしまい、とて30万円を送金した。現地のセン・パラ・スチュアートさんから報告と感謝のメッセージが寄せられた。

車両は1996年製造のトヨタ「ハイエーススーパーカスタム」で、3000ccのディーゼル車。学校への送迎、食料や生活用品の運搬などに

グループでは「多くの人の善意に感謝したい」と話す。クラウドファンディングの支援者には、金額に応じてお礼が届くという。



活動車両を購入して喜ぶ現地のメンバー＝ウガンダ

寄稿

# ウガンダの支援で 現地から感謝の言葉

館山 愛沢 伸雄

安房地域の高校生を中心にして、23年間続いたウガンダ支援活動の一環として、このたびクラウドファンディングというインターネット型募金に取り組んできました。孤児の送迎や食料などの運搬用車両が故障してしまったため、代替車両の購入資金を支援してほしいという緊急要請によるプロジェクトでした。

活動に関わった卒業生らが中心となって地域内外へ広く呼び掛け、房日新聞でも紹介

していただき、2か月余りで目標を達成することができました。210人から130万円の寄付が寄せられました。すぐに送金したところ、トヨタハイエースの中古車両を購入できたと喜びの報告がありました。

本プロジェクトに賛同しチャリティー油彩画展を開催してくださった大山晃一画伯の基金により、報告書「安房の高校生によるウガンダ支援・交流23年のあゆみ」を作成するこ

とができました。ご支援いただいた皆さま方には贈らせていただきますので、どうぞご照覧ください。なお闘病中であつた大山画伯は、大きなプロジェクトを成就した直後の11月17日に逝去されました。感謝とともに、心よりの冥福をお祈りいたします。

ウガンダは今なお政情が不安定で、貧しい子どもたちが多いのですが、私たちの支援活動は、彼らに「何かをしてあげる」という施しの視点ではなく、対等な地球市民として、お互いに支え合い分かち合つて生きていくことの大切さを学び、ま

つづきの生かしてきてきました。これからも永く信頼と友情を育み、高校生と市民が主役となる国際交流を進めていきたいと思つていきます。

皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。私たちの友人であるセンパラ・スチュアート氏のメッセージをここに紹介させていただきます。

(NPO法人安房文化遺産フォーラム代表)

◆ ◆ ◆

長きにわたつて親しい関係を築き、支援を続けてくれている館山、安房の高校生や市民の皆さまに、あいさつ申し上げます。

人々が自立し、持続可能な発展を社会にも

たらすには、教育が最優先の課題です。たとえば、魚1匹あげれば1日食べつなぐことはできますが、魚の獲り方を教えれば一生食べていくことができます。このように知識や技術を身につける教育を目指し、私たちは4つの学校や村で子どもたちの教育や生活をサポートしてきました。

そのひとつは「安房南洋裁縫学校」と名付けた職業訓練施設で裁縫技術を習得させています。

貧しい村に住む子どもたちは、離れた地域にある学校へ連れて行き、休みには村に連れ帰ることが必要です。また、食料や生活用品

を運搬したり、子どもたちを健康センターへ連れて行ったりと、私たちは広範な地域を往復しています。

その活動車両が野生の水牛に衝突して故障し、とても困つていたところ、愛沢伸雄先生からクラウドファンディングが提案され、私との共同名義でプロジェクトがスタートしました。

短期間で集められた温かい支援金により、日本のトヨタ車8人乗り(1996年式)を購入することができました。子どもたちは再び学校に通えるようになったり、とても喜んでいきます。

皆さまからいただいた恩恵は、子どもたちにとって大きな刺激であり、国際的な友情と理解を生み、想像と思考を広めてくれます。将来、友人のいる日本に行きたいと計画するきっかけになるのではないかと、私は楽しみにしています。

私たちの組織が存続でき、暮らしやすい地域社会づくりに進めることができるのは、ひとえに皆さまの惜しみない援助の賜物です。あらためて感謝するとともに、これからも力添えいただけますようお願い申し上げます。

(ウガンダ意識向上協会代表 センパラ・スチュアート)